

前例のない連合旅行会

～かつてないチャレンジをしてみた～



ブライトン国際特許事務所
所長 弁理士 梶 俊和

「例えば事務所経営についてとか」と、メルマガ執筆依頼を受けたが、経営下手の私が語れることなど何もない。とはいえ、紆余曲折、20年以上も弁理士をやってきたので、書こうと思えば書けそうなトピックは何かあるかも知れない。

例えば、「事業承継の難しさ～弁理士だからといって善人ばかりじゃない～」とか「会務と業務とのバランス～あなたの肩書から弁理士が消えても自力で稼げますか？～」とかならどうだろう。会社員時代の先輩からの教訓、題して、「人は嘘をつく～上司に考えさせたら三流～」を紹介するのもよいかも知れない。趣向を変えて、30年程前に夜の農道で実際に経験したちょっとホラーな恐怖体験を語るのも一興だ。

などと思案していたら、今年、弁理士連合クラブ幹事長として連合旅行会の企画と準備に深く関わったのだが、これが結構かつてないチャレンジ企画となった。このタイミングでこれを紹介しないテはない。弁ク会員に知ってもらうことも務めだと思い、結局は今年の連合旅行会の様子について紹介することにした。上記恐怖体験等については、またの機会に譲りたい。

弁理士連合クラブでは、弁クの旅行会とは別に毎年旅行会を開催している。例年、他会派の旅行先とかぶらないように旅行先を探すのだが、今年は名古屋（9月23～24日）と決めた。名古屋というと観光地でなく都市なので目新しさはない。特に東海地区の会員にとっては地元となり申し訳ないが、関東・関西からのアクセスの良さと、交通費を抑えて参加者増を期待して選定した。

例年は、初日に夜の宴会、2次会、そして希望者が各々深夜の3次会へ流れていく。翌2日目は、希望者がゴルフプラン、観光プランに分かれて参加する。かつては温泉旅館でお座敷宴会開催が通例だったが、コロナ禍以降はシングルルームでの宿泊が基本となった。今年も他会派の状況も踏まえ、シングルルーム（シティホテル又はビジネスホテル）での開催とした。

余談だが、今年は鈴鹿F1開催日と重なったため、旅行会直前には名古屋周辺のビジネスホテルが素泊まりで1泊4万～6万円程度となる高騰ぶりだった。恐ろしい。ちなみに連合旅行会の収支は、だいたい収入約300万円、支出約350万円で、毎年赤字なのだ。

連合旅行会では、弁理士会役員や他会派からの来賓も多数参加されるし、参加者の年齢層も幅広いので、ある程度格式を尊重する。宴会で誰に上座に座って頂くとかか当日のス

ムズな進行にも気を遣う。そんな中、今年最初のチャレンジは、宴会をフラットな雰囲気「屋外BBQ」開催としたことだ。天候に左右される、格調が下がる、騒がしい、現場が混乱する、と多くのリスクが懸念されたが、結果的に天候に恵まれ大変好評だった。格式張ってはいないものの、却ってみんなワイガヤと楽しく語れる場となった。



次のチャレンジは、宴会を「いきなり乾杯から始めた」ことだ。来賓挨拶の前に乾杯してしまうのはかなり勇気の要る決断だった。弁理士会会長や各派幹事長など、偉い方々のご挨拶前に飲み始めると騒がしくなって失礼ではないか、とかなり逡巡した。屋外開催ならではの判断（挨拶待ちで飲み物がぬるくなる）だったが、これもやってみると案外杞憂であって、来賓の方も「まだ終わんないの？というプレッシャーもないし、気楽に挨拶できた。」と好意的であった。



かる。参加者が少ないと赤字が増えるかもと心配したが、多くの方に参加して頂けたし、楽しんで頂けたと思う。



1つ1つは小さいが、色々とチャレンジをしてみた。やってみてよかったと思う。屋外BBQは天気や気温に左右されるのでやはりリスクはあるが、連合旅行会の垣根を低くできたのではと思う。いきなり乾杯は、「今後のトレンドになるかも」との声もあったほど好評であった。そして、今年の参加者は100名を超えた。私の知る限り連合旅行会として初めての大会ではなかったかと思う。

最後に、旅行会準備や当日進行には、連合企画委員会のメンバーに大変協力をして頂いた。この場を借りてお礼を述べたい。企画委員は、旅行会参加の際に連合から補助金が出るので、我もと思う方は来年の委員に是非手を挙げて欲しい。

(※なお、原稿執筆時点は、2023年10月となります。)